



NASA, ESA, and the Hubble Heritage Team (STScI/AURA)

Hubble Sees a Horsehead of a Different Color STScI-2013-12

馬頭星雲

オリオン座にある三つ星の東端の^{せう}星すくぐ南に散光星雲 IC434があります。IC434の光を馬の頭部の形そっくりの暗黒星雲が遮り宇宙空間に影絵を描いていて、天文ファンにも人気です。この写真は赤外線撮影されたデータを使って合成しています。その一方で、水素イオンの蛍光に相当する波長をデータとして使っていません。このため、馬頭星雲より遠方にある星や銀河がよく観察できる反面、散光星雲 IC434は表現されていません。天体写真ニアにとつては不思議なイメージです。

塵や冷たい分子でできている暗黒星雲は星の誕生の場です。IC434(透き通った部分)との境界付近では星からの紫外線を受け暗黒星雲が徐々に消えています。遠い将来には特徴的な影絵はなくなっているのかもしれない。地球から1600光年のところにあり、写真の縦の長さは2.5光年に相当します。

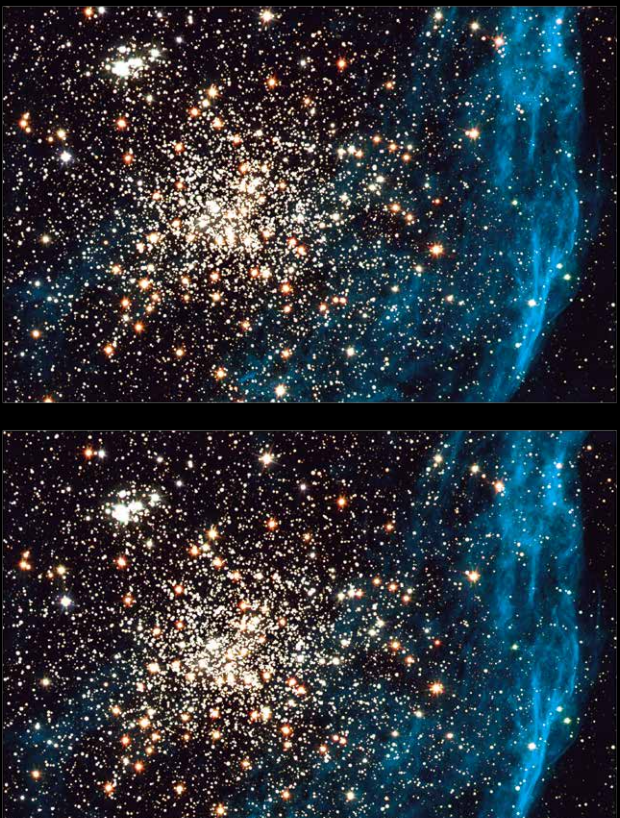


Hubble Heritage Team (AURA/STScI/NASA)

Multiple Generations of Stars in the Tarantula Nebula STScI-1999-12

Hodge301

大マゼラン雲の中にある散開星団です。写真全面に広がる散光星雲はタランチュラ星雲のごく一部で、右下に見えるHodge301はこの巨大な散光星雲の中にあります。大質量星の多い散開星団で、すでに超新星爆発を起こした星がたくさんあったと考えられています。その爆風は秒速300kmにも達し、星雲の一部を美しいフィラメント状に変化させています。超新星爆発前の年老いた星がいくつもあり、写真でもオレンジ色の星を三つ確認できます。写真中央やや上部には星の卵が認められ、星のさまざまな世代が一枚の写真の中に共存しています。地球からの距離は16.8万光年で、写真は約96光年の範囲をとらえています。



NASA, ESA, and Martino Romaniello (European Southern Observatory, Germany)

Hubble Snaps Picture of Remarkable Double Cluster STScI-2001-25

NGC1850

大マゼラン雲中にある明るい二重星団です。手前にある大きな星団は球状星団に分類されています。しかし星団の年齢が5000万歳と若く、また大質量星をたくさん含んでいて、天の川銀河周辺にある球状星団とは全く異なるようです。星団内には年老いた赤色巨星がいくつか認められ、すでに超新星爆発を起こしたものもあるようです。その爆風が星間物質を加熱して、フライラメント状のガス雲を作り、その中から新しい星が生まれました。左下奥にある散開星団の年齢は400万歳です。地球からの距離は16.8万光年で、写真の縦の長さは102光年に相当します。